

(社)日本原子力学会 標準委員会 基盤応用・廃炉技術専門部会
第9回 風洞実験実施基準分科会(P3SCPh3)議事録

1.日時 2016年6月7日(火) 14:00～16:00

2.場所 日本原子力発電(株)本店第4会議室

3.出席者(順不同, 敬称略)

(出席委員) 北林(主査), 佐田(副主査), 伊藤(幹事), 市川, 道岡, 山澤, 近藤, 筑紫,
中山, 一条, 岡林, 馬淵, 渡辺, 千葉, 野田(15名)

(欠席委員) ー

(常時参加者) 沼田

4.配布資料

Ph3.9-1 風洞実験実施基準:2009の改定の進め方について(案)

Ph3.9-2 風洞実験実施基準新旧比較表

Ph3.9-参考-1 発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための
風洞実験実施基準(改定案)

Ph3.9-参考-2 標準委員会 基盤応用・廃炉技術専門部会 風洞実験実施基準分科会
名簿

5.議事録

(1)出席委員の確認

15名の委員全員が出席しており、定足数(10名以上)を満足していることを確認した。

(2)自己紹介

分科会委員の自己紹介があった。

(3)分科会主査の互選と副主査・幹事の指名

分科会の役員が次の通り決定された。

- ・出席委員の無記名投票の結果、北林委員を主査に選出した。
- ・北林主査より佐田委員が副主査に指名された。
- ・北林主査より伊藤委員が幹事に指名された。

(4)分科会代表者の選任

北林主査より基盤応用・廃炉技術専門部会への分科会代表者として伊藤幹事を選任したい旨提案があり、了承された。

(5)常時参加者の登録

北林主査より沼田氏から常時参加者として参加したいとの申し出があった旨の報告があり、了承された。

(6)分科会設置の主旨説明

沼田常時参加者より Ph3.9-1 に基づき分科会設置の主旨・スケジュールが説明され、了承された。

- 1)下記の課題があり、標準は5年毎の定期改定時期も過ぎていることから改定を行う。
 - ・風洞実験実施基準：2009の公衆審査後の異議申し立てにより指摘を受けた、気流調整方法（水平方向の拡がりのパラメータ(σ_y)も大気安定度がC～Dの範囲にあること)の規定への反映について検討する。
 - ・発電所敷地内で建屋増設、地形改変等があった場合の風洞実験要否の目安を検討する。
また、平常運転時の風洞実験で用いる風速の観測データが変更となった場合の目安も検討し、可能であれば改定に反映する。
 - ・数値モデル計算実施基準：2011が制定されているため、風洞実験実施基準：2009の解説の数値モデルに関する記載を削除する。
- 2)改定の検討は、2017年秋頃の終了を目標とし、分科会での検討を進める。

(7)改定内容の審議

沼田常時参加者より Ph3.9-2 に基づき現状分かっている改定箇所及び改定案について説明があり、内容を審議した。なお、Ph3.9-参考-1 を通読し、更に誤記・脱字の修正、記載の適正化等が必要な箇所がある場合は 6/30 までに沼田常時参加者宛て連絡することになった。

主なコメントは以下の通り。

(No11)図 6-2 で 10km 付近の水平方向の拡がりのパラメータ(σ_y)は、大気安定度 C~D の範囲に入っていない。C~D の範囲について、解釈等を明確にした方が良い。

→標準では、測定対象範囲を風下側 5km までとしているため、データのプロット範囲も同様に 5km までに修正し、大気安定度 C~D の範囲に入っていることを示すこととする。

→図 6-3,図 6-4 も風下 5km までのプロットに変更する。

(No10)図 6-1 の各高度の風速の記号は、数値モデル計算実施基準同様に u(小文字)する。

(No6) Ph3.9-参考-1 の改定案に反映されていない。

(No11,12)補足の変更理由を σ_y の変更によるものに修正する。

(No16,18) 建屋増設、地形改変による風洞実験(再実験)の要否の目安に関する記載は、明確かつ分かり易い記載に修正した方が良い。

参考文献 3) 筆者が抜けている。タイトルスペルミスがあるので修正する。

図 A.2 図中記号が注記と合っていないので修正する。

(全般) 参考文献の記載方法の統一を図るとともに、タイトル、筆者等の記載内容については、改めて整合を確認する。

(全般) 式と文中の記号の字体など、標準作成のルールと異なる箇所は修正した方が良い。

(全般) σ_y 追加が異議申し立てへの対応であり、解説に調整可能となった背景を追加した方が良い。

(8)今後の予定

第 10 回分科会を 7 月 11 日(月)10:30~に開催することとした。

以上